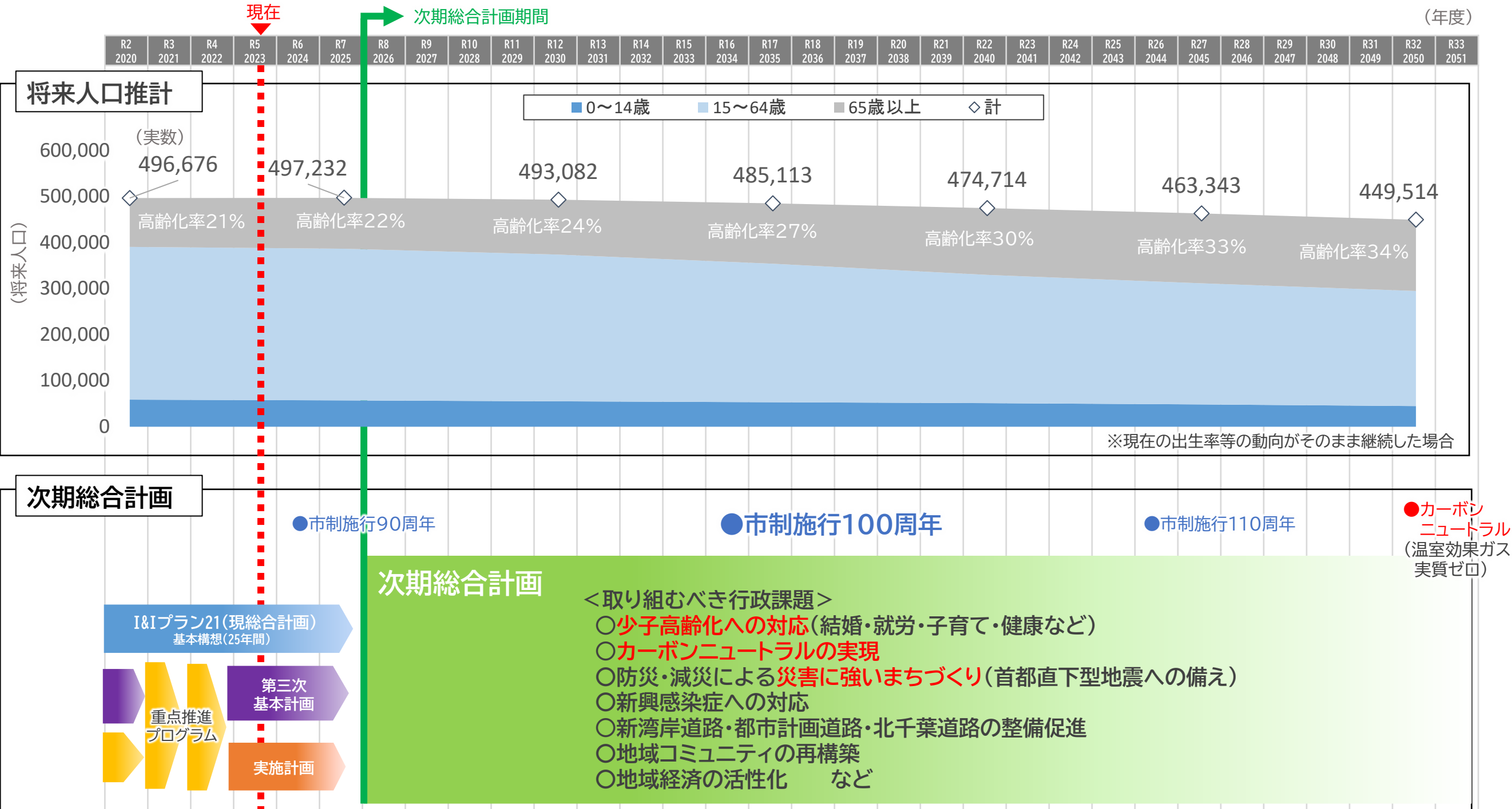


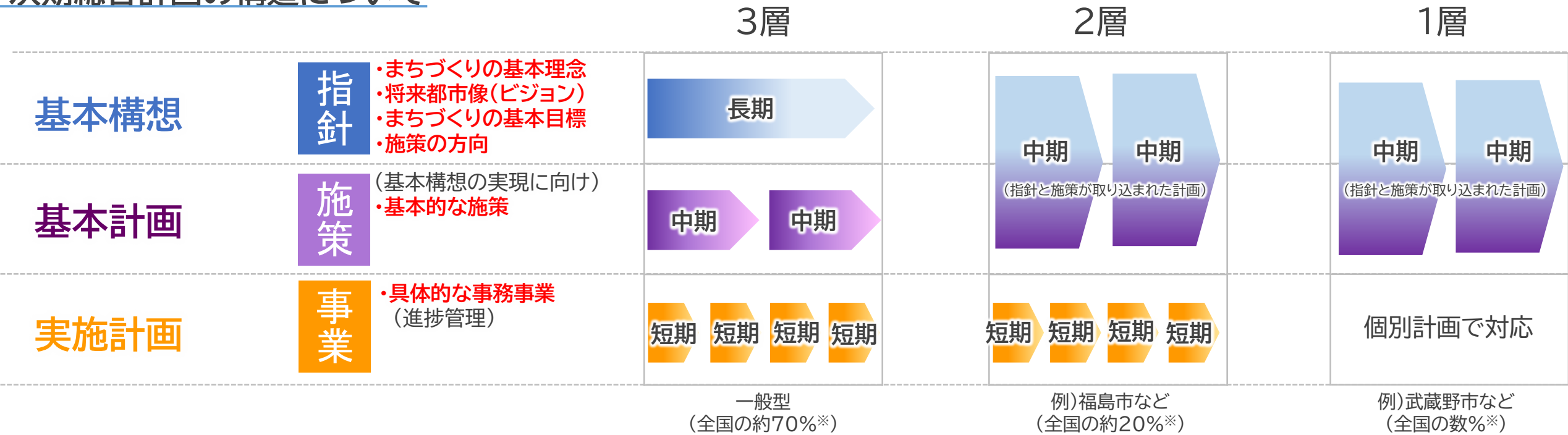
1 総合計画を策定する上での留意事項

- 令和4年度総合計画審議会の答申
以下の2点の留意事項が示された。
 - ①現在の「3層構造」に縛られることなく、**組換えも検討する。**
 - ②未来につながる街づくりに向けて、**様々な諸課題に柔軟に対応する**計画とする。

2 次期総合計画の策定について



3. 次期総合計画の構造について

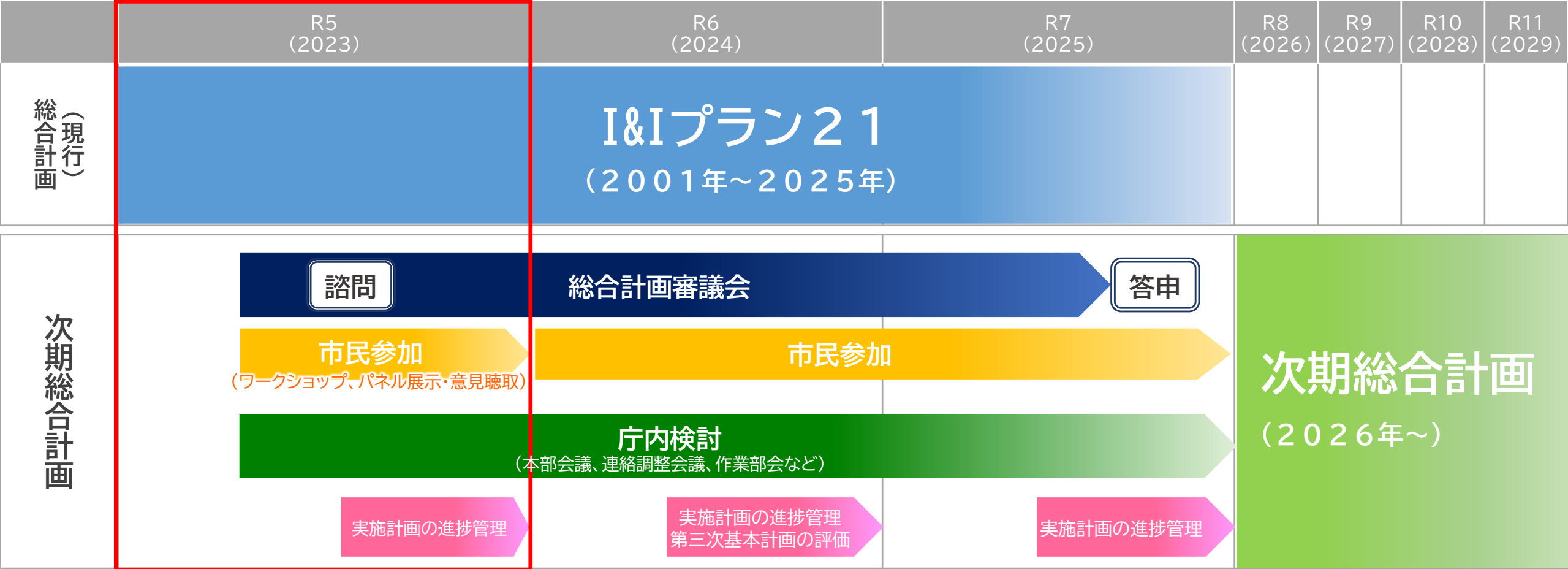


※令和3年度自治体経営改革に関する実態調査報告(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)より

■各構造の特徴

構造	利点	課題
3層	●長期的な視点によりあるべき姿を定め、現状を見据えた上で、そこに向けて逆算して施策・事業を実施していくことで、効果的・効率的な対応が可能。 ●長期・中期・短期と明確に分けることで、市民にとって分かりやすい。	●計画期間が長期化した場合、計画の土台となる人口動態など本市を取り巻く状況が変わるため形骸化するおそれがある。 ●計画期間の中間時点において、施策の見直しも含めた検証が必要。
2層	●中期的ビジョンに限定されるが、施策・事業を見直すことで社会状況の変化に対応が可能。	●行政運営の視点が中期的となる。
1層	●全体の構成を簡素化することで、策定コストを抑制できる。	●行政運営の視点が中期的となる。 ●総合計画でありながら個別計画で進捗管理をするため、断片的となる恐れがあり、将来都市像へ向かう意識が希薄になる。

4. 今後のスケジュールについて



<令和5年度スケジュール>

